

## 論文要旨

論文題目 「タイ日母語場面と日本語接触場面における不満表明ストラテジーに関する研究  
—遊びフレームへのリフレーミングに着目して—」

氏名 Wongsaming Sureerut (ウォンサミン スリーラット)

本論文は、母語場面における日本語母語話者とタイ語母語話者の不満表明ストラテジーの特徴を明らかにした上で、日本語接触場面におけるタイ語母語話者と日本語母語話者の言語行動の特徴を明らかにし、その特徴を基に異文化理解及び異文化間コミュニケーション教育に寄与することを目的とする。本論文はタイ語母語場面と日本語母語場面における不満表明で用いられる言語行動に注目した研究 1、日本語接触場面における不満を言う側としてのタイ語母語話者の言語行動について分析した研究 2、日本語接触場面における不満を言われる側としての日本語母語話者の言語行動研究について述べた研究 3 で構成されている。

研究 1 では、まず、不満表明ストラテジーの使用傾向について、タイ語母語場面では、【非難】、【話者の情報提供】、【冗談】の使用率が有意に高かった。不満を表明すると同時に、冗談を用いるのは今回のデータにおけるタイ語母語場面の特徴である。一方、日本語母語場面では、【情報・理由説明要求】、【一般情報提供】、【改善要求】が多用されていた。また、不満表明ストラテジーから構成される談話展開パターンを分析した結果、タイ語母語話者と日本語母語話者が捉えるマクロレベルの不満表明フレームが異なることが分かった。タイ語母語話者は好ましくない状況の解決策を素早く見出そうとして会話を進めることを優先しているわけではなく、ところどころで冗談を言うことが許容されている。一方で、日本語母語話者は相手と交渉を重ね好ましくない状況の解決方法を導くことを優先している。

研究 2 では、研究 1 で明らかになったタイ語母語話者の不満表明ストラテジーの特徴の一つである冗談を取り上げて、リフレーミングの観点から、日本語接触場面における不満を言う側であるタイ語母語話者の言語行動を分析した。その結果、タイ語母語話者は相互行為の中で冗談を言って、遊びフレームへのリフレーミングをしていることが分かった。相手がリフレーミングを認識可能とする手がかりとして、相手のフェイスへの侵害有無という基準に基づいて冗談を内容別に分類した結果、「フェイス侵害あり」には、【笑い】、【繰り返し】、【プロソディーの変化】、【スタイル・シフト】、【直接引用発話】の手がかりが用いられているのに対し、「フェイス侵害なし」には【笑い】、【繰り返し】、【プロソディーの変化】の手がかりの使用がみられた。これにより、今ここので行われている活動のおかしさをより際立たせる作用があり、遊びフレームへのリフレーミングの認識が促進されると考えられる。

研究 3 では、遊びフレームへのリフレーミングの際にみられた日本語母語話者の行動を【笑い】、【評価】、【模倣】、【共演】、【対立】、【曖昧な応答】、【聞き返し】の七つの言語・非言語行動に分類した。また、日本語母語話者が遊びフレームを共有する度合い別に見れば、遊びフレームを認識し、一応はそのフレーム内で笑いや発話を返しているが、遊びフレームを完全に受け入れているとは言えないパターン

(RFII.)が一番多く、その次は、完全に遊びフレームを認識し、タイ語母語話者と相互に遊びフレームを展開させている場合(RFI.)である。一方、遊びフレームを認識したが、それを共有できずに前のフレームに戻す場合(Non-RFI.)と、遊びフレームが認識できなかった場合(Non-RFII.)がほぼ同じ回数で観察された。各パターンに共通して現れた言語行動は【笑い】と【聞き返し】である。そして、各パターンにみられる遊びフレームにおける冗談を内容別に分析した結果、RFI.には、「フェイス侵害なし」の冗談のみ観察された。一方、RFII.とNon-RFI.とNon-RFII.には、「フェイス侵害あり」の冗談のみ観察された。「フェイス侵害あり」の場合は、日本語母語話者は遊びフレームを認識したとしても慎重に反応を示しつつ、タイ語母語話者とともにリフレーミングを成立させている。あるいは、リフレーミングに失敗した場面もみられた。日本語母語話者がどれだけ遊びフレームを共有するかは、遊びフレームにおける相手のフェイス侵害有無の冗談の内容が重要な決め手となる。

以上のことから、特に強調したいのは、不満表明の場面における相互行為の中で冗談を言って遊びフレームへのリフレーミングを行うという現象がタイ語母語話者に現れている点である。遊びフレームへのリフレーミングによって、笑いを生みやすいような環境が作られ、不満表明による緊張した雰囲気緩和させる効果があるため、タイ語母語話者にとって、対立する聞き手との人間関係を保つ重要な談話戦略であることが分かった。遊びフレームへのリフレーミングを実現させるには、会話参加者の相互作用が必要になる。しかし、相手に対する攻撃的な内容や皮肉が含まれた冗談に対しては、親しい間柄同士とはいえ、異なる不満表明フレームを持つ日本語母語話者にはすぐに理解し合えるとは限らず、うまく反応することは彼らにとって決して簡単とは言えない。

これによって、日本語母語話者にタイ語母語話者の言語行動が適切に理解されず、不要な誤解が生まれた結果、人間関係が崩れてしまう可能性がある。このため、互いの不満表明における言語行動の差異をよく理解し、それに注意しつつコミュニケーションを図っていくことが望ましい。本研究で得られた新たな知見は、タイ語母語話者と日本語母語話者の不満表明における摩擦を軽減し、相互の理解を促すことの一助になることが期待できる。